

佐賀県における非専門医肝炎ウイルス対策（眼科）

研究分担者：高橋 宏和 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
研究協力者：西村 知久 医療法人 YT 美川眼科医院
研究協力者：磯田 広史 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
研究協力者：矢田 ともみ ロコモディカル総合研究所

研究要旨： 令和元年度に実施した佐賀県における肝疾患診療連携についてのアンケート調査で、非肝臓専門医にウイルス陽性者が多数通院しているが、経口製剤による抗ウイルス治療法や医療費助成制度、連携可能な医療機関等に関する医療機関側の知識や情報の不足に起因する未治療患者が存在していた。また、特に眼科医療機関で肝臓専門医への紹介数が少ないことが明らかとなった。既に拠点病院と連携し、肝炎医療コーディネーターを活用して陽性患者の肝臓専門医への高い紹介率を達成している眼科医院の協力を得て、肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレット、陽性者への対応マニュアルを作成・最適化することを本研究の目的とした。また佐賀県内の眼科医療機関へ展開することを念頭に、佐賀県内の眼科医療機関を対象にウイルス検査陽性患者への対応の現状や、今後の連携の可能性を問うアンケート調査を行った。説明用リーフレットは受診及び受療行動を促すナッジ、視力が低下した患者に留意した視認性、説明する医療従事者の知識や相談連絡先の明示などを重視し、佐賀県版の作成を経て、全国版の作成を行った。マニュアルは眼科医療従事者がウイルス肝炎、肝がんについての説明に必要な最小限の知識を短時間で確認することが出来る内容とした。佐賀県内眼科医療機関へのアンケートの結果、令和元年よりも肝臓専門医との連携を考慮する医療機関数は増加していたが、知識や情報不足によって紹介に至らない医療機関が散見された。今後、資材やスキームの水平展開や個別訪問、研修会等を通して、眼科医療機関が肝炎ウイルス対策に参画することの重要性を啓発していく。

A. 研究目的

2019 年度に実施した佐賀県における肝疾患診療連携の現状調査（厚生労働科学研究費補助金肝炎等克服政策研究事業「地域に応じた肝炎ウイルス診療連携体制構築の立案に資する研究」班）では、消化器・肝臓内科を標榜しない多くの医療機関にウイルス性肝炎患者が通院しているが、経口製剤による抗ウイルス治療法や医療費助成制度、紹介可能な医療機関等に関する知識や情報の不足により治療に至っていない患者が未だに存在すると推測された。「肝炎ウイルス陽性者を必ず肝臓専門医に紹介する」と回答した医療機関の割合が最も低い診療科である眼科において、紹介率を向上する取り組みが必要である。

我々は平成 26 年から佐賀県内の眼科医療機関である美川眼科医院と共同で、肝炎医療コーディネーターを活用し、肝炎ウイルス陽性者の紹介率を向上させる取り組みを行ってきた。同院の協力を得て、本研究では眼科医療機関において、術前検査等で肝炎ウイルス陽性となった患者への、適切かつ効果的な説明の実施、陽性者の肝疾患専門医療機関への紹介および受診状況の改善のためのスキームやツールを構築及び最適化し、佐賀県内及び全国へ展開することを目的とする。

B. 研究方法

拠点病院の肝炎医療コーディネーター及び医師がファシリテートし、美川眼科医院の肝炎医療コーディネーターを含むメディカ

ルスタッフ、医師、事務職従事者の意見を集約し、肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレット、陽性者への対応マニュアルを作成する。また佐賀県内及び全国の眼科医療機関へ展開することを念頭に、資材の最適化を行った。また佐賀県内の眼科医療機関を対象にウイルス検査陽性患者への対応の現状や、今後の連携の可能性を問うアンケート調査を行った。加えて佐賀県を含む九州地区で眼科関連の学会及び医療従事者研修会等で講演活動を行った。

C. 研究結果

1. リーフレット作成

リーフレットは受診及び受療行動を促すナッジとなるキーワードとして「陽性」「できるだけ早く」「精密検査無料」などを採用した。一方で眼科処置や手術に際する入院等での使用が想定されたため、過度に患者の不安を煽るような表現を回避することに留意した。また視力が低下した患者に留意した視認性を確保する目的で、通常のリーフレットよりも文字を大きく、カラフルな色遣いを心掛けた（図1）。



図1) 肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレット（佐賀県版）

また、佐賀県内や全国での展開を念頭に、肝炎ウイルス検査が陽性であることを明確に伝えるメッセージや肝臓専門医の受診の重要性を強調し、イラストやデザインを調整したリーフレットを作成した（図2）。



図2) 肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレット（全国版）

2. マニュアル作成

肝炎ウイルス陽性者へ検査結果を説明する際に使用するマニュアルは、眼科医療従事者がウイルス肝炎、肝がんについての必要最小限の知識を短時間で確認することが出来る内容で作成し、また全国の拠点病院連絡先一覧を掲載した（図3）。



図3) 肝炎ウイルス陽性者への説明用マニュアル

マニュアルに含まれる連携のスキームを示すフロー図については、患者に内科等のかかりつけ医がある場合、また眼科医療機関が直接、肝臓専門医と連携することが可能な場合のそれぞれのケースを想定し、連携先を選択することが出来るよう、異なる2つのバージョンを作成した（図4）。

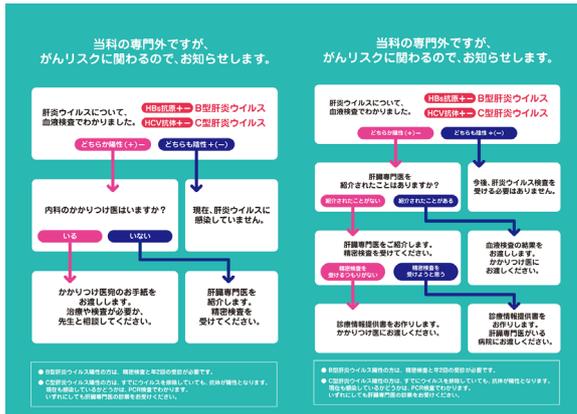


図4) 肝炎ウイルス陽性者への説明用マニュアル

3. 佐賀県内の眼科医療機関を対象としたアンケート調査

佐賀県眼科医会役員が所属する眼科医療機関 26 施設を対象に、肝炎ウイルス陽性者への対応についてのアンケート調査を行った。令和元年度に行ったアンケートと同様に、陽性者を肝臓専門医へ「必ず紹介する」「場合によっては紹介する」「紹介しない」を問う質問に対する回答は、それぞれ59%、26%、11%、無回答 4%であり、「必ず紹介する」の割合は令和元年度の32%から上昇していた。さらに、「場合によっては紹介する」と答えた施設のうち、約半数は「既に内科等で治療中であるため」と回答しており、ウイルス陽性者への対応が浸透している可能性が示唆された。一方で肝炎に対する知識の不足や説明時間の不足、紹介先医療機関の情報の不足などを理由に肝臓専門医への紹介を行っていない眼科医療機関が存在していた。

4. 啓発活動

眼科医及び眼科医療従事者へ肝炎ウイルスに関する知識や最新の治療法に関しての情報を発信する目的で、佐賀県を含む九州地区において、眼科関連の学会及び医療従事者研修会等で研修会や講演活動を行った。

D. 考察

ウイルス性肝疾患のマネジメントにおいて、ウイルス陽性者を漏れなく確実に肝臓専門医の受診につなげることが重要である。肝臓非専門医療機関においても同様であり、特にウイルス抗体検査件数が多い眼科では、ウイルス陽性患者の対応を要する機会が多い(井上ら, 肝臓 63 巻 2 号 87-89 2022)。肝炎の知識が十分ではないメディカルスタッフであっても、抵抗感なく受診勧奨を行うことができ、患者の動機付けに資するツールやマニュアルが重要であると考えられた。本研究で作成したリーフレットは渡す側としての眼科メディカルスタッフ、受け取る側としての患者、それぞれの目線で考慮し作成した。

マニュアルに含まれる連携のスキームを示すフロー図について、研究班でディスカッションを行い、2パターンを準備した。ウイルス陽性の結果を、かかりつけ医と肝臓専門医のどちらに共有すべく、患者に案内を行うかは、眼科医療機関とかかりつけ医の関係や治療歴等に関する情報収集、地域性等によって異なることが想定された。これらのフローの違いが、最終的な肝臓専門医の受診率に与える影響は、今後検証する必要がある。

本研究で作成された資材が、肝臓専門医への紹介率・受診率またはかかりつけ医への報告率に寄与するか、今後検討する予定である。また本研究で作成した資材は、眼科のみならず、他の非肝臓専門診療科へ展開することが可能と考えられる。眼科医療機関での水平展開と並行して他の診療科での使用を念頭に置いた資材の最適化も検討すべき課題である。また水平展開においては、各医療機関における肝炎の知識やかかりつけ医との連携、医師を含む多職種連携の状況等が異なると想定される。可能な限り個別に訪問し、研修会等を通して、眼科医療機関が肝炎ウイルス対策に参画することの重要性を啓発していく。

E. 結論

眼科医療機関において、肝臓専門医への紹介率・受診率の向上に資する資材作成や取り組みを行った。今後、効果検証及び他専門領域への展開を継続する。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

上記に研究班活動に加えて、佐賀大学医学部附属病院肝疾患センターとして、佐賀県肝疾患対策委員会、佐賀県連携拠点病院と連携し、佐賀県における肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

1. 磯田 広史 ○高橋 宏和 江口 有一郎
C型肝炎全例治癒に向けた佐賀県の肝疾患診療連携における残された課題. 日本消化器病学会雑誌 117巻臨増総会 Page A83 2020.
2. 磯田 広史 ○高橋 宏和 江口 有一郎
佐賀県における肝炎患者の病診連携に関する調査結果と今後の対策. 日本消化器病学会雑誌 118巻臨増総会 Page A213 2021.
3. 西村知久 磯田広史 ○高橋宏和 眼科
における肝疾患患者の受診勧奨について
日本消化器病学会雑誌119巻臨増総会
Page A79 2022.
4. ○高橋宏和 肝疾患新時代における地域
連携モデルと臨床検査の重要性 第69回
日本臨床検査医学会学術集会プログラム
Page 14 2022.
5. 高橋 宏 和 Hepatitis Medical Care
Coordinators — Comprehensive and
seamless support for patients with
hepatitis in Japan 肝臓 63巻 suppl.1
Page A72 2022.

3. その他

啓発資材

肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレット及びマニュアルを作成

啓発活動

1. 第91回九州眼科学会・第34回九州眼科医
会従業員教育講座「眼科術前スクリーニ
ング検査を活用したウイルス性肝炎対
策」高橋宏和 令和3年5月30日
2. 令和4年度佐賀県肝炎医療従事者研修会
特論:眼科における肝炎対策 高橋宏和ら
令和4年11月28日
3. 令和2・3・4年度佐賀県肝炎医療コーディ
ネーター養成研修会・スキルアップ研修会
佐賀大学医学部附属病院、同肝疾患セン
ター

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし